

皆さんおはようございます。そして、改めて新年あけましておめでとうございます。

ご承知のように、対震化工事が二号館東半分の教室を中心に進められており、三学期始業式は、放送で行うこととなりました。

生徒の皆さんには、いろいろと不自由をかけていますが、来年度は二号館西半分の教室を中心に対震化工事を行うこととなります。

いろいろな制約が生じることもあると思いますが、引き続き、御協力をよろしくお願いします。

今日から三学期が始まります。

年末年始を含む冬季休業の期間を皆さんは、どのように過ごしましたか。

将来の進路をしっかりと見据え、三学期、さらには来年度に発展的につながっていく充実した毎日を送っていただけたでしょうか。

昨年末の二学期終業式の際にも申し上げましたが、皆さんは、本当に高い志を持ち、自覚を持って、本校における中学校生活、高校生活にがっばってくれていると思います。

ぜひ、三学期が始まる節目の今日、頑張ったこと・できたこと、頑張ろうとしてできなかったことを曖昧にすることなく、十分に振り返り、新たなスタートをしていただきたいと期待しています。

特に、高校3年生の皆さんには、センターテストも近づきました。先日もカレンダーのことが新聞で大きく取り上げられました。後輩たち、先生方も応援しています。

これまで重ねてきた努力、培った力を信じ、体調管理に注意して、しっかりと頑張ってください。

さて、この年末年始にかけて大変な寒波が襲来し、全国各地で、降雪の影響により大きな被害に遭われた方も多かったとの報道もありました。心からお見舞いを申し上げます。

今日は、厳しい冬の寒さにちなんだお話を一つだけ申し上げます。

詩人の高村光太郎は、「冬」を題材にした作品を書いています。例えば『冬が来た』という詩の中には、「人にいやがられる冬」のように、一般的な冬のイメージに触れた後、「冬よ、僕に來い、僕に來い 僕は冬の力、冬は僕の力だ。」と、むしろ厳しい冬を、自分の力としたり自分を鍛えるものとして立ち向かっていく前向きな気概を示しています。

また、別の『冬の詩』という作品の中には、「冬は未来を包み、未来をはぐくむ」という表現があり、冬に希望を託しています。

私たちは、ともすれば、この「冬」に象徴される厳しい環境、いろいろな困難などを否定的に捉えがちですが、それらの解決に積極的に立ち向かっていくことを通じて、言葉を換えれば、厳しく、困難な状況の中にこそ、私たちを鍛え育てる大きなきっかけが存在するのではないかと、高村光太郎の詩の一節をたどりながら感じたことでした。

肌を刺すような厳しい寒風の中ですが、大気も澄み渡り、引き締まった雰囲気の中で、様々なことを見つめ直すよい機会でもあります。

来るべき春を見据えながら、今日からの三学期、しっかりと頑張ってください。